

土と砂の団子作り

伊丹ひまわり保育園（兵庫県伊丹市）

[4歳児]

<活動前の様子> 4歳児クラスに進級し、自分たちで、畑の土作りをした。「砂場の土ではダメなん!？」という子どもたちの疑問を受け止め、土と砂と両方でトマトを育てることになった。そこで、砂と土の感触の違いを感じたり、砂では野菜は元気に育たないことを知ったりした子どもたち……。ある日のこと、団子作りが大好きな子どもたちが、土と砂それぞれで団子作りを始めた。両方に同じ水の量を入れた。



砂で作った団子

A児：「ベチャベチャしている」
B児：「お餅みたい」
いつもの調子で作っていく。



土で作った団子

A児：「粘土みたい」
B児：「固くなった」
C児：「めっちゃいっぱい作った!」
保育者：「作りやすい?」
D児：「うん。粘土みたいやった」



どちらが作りやすいかは好みのもようだった。土は粘土質だったようで、水を加えることで粘土のように固まり、団子にしやすかった様に思われた。その結果、土で作った団子は短時間で18個もでき、砂で作った団子はきれいな形に出来るまでに時間がかかっていた。

<3日後>



A児：「カチカチやな」
B児：「でも、サラサラしてるで」



A児：「こっちもカチカチやで」
B児：「でも、何か壊れそう」

触った感触の違いは自然と言葉に出るようになってきた。壊してみると、砂の方が少し固く「かたまり」が残る状態だったが、土はすぐに壊れて、壊した後もフワフワしていた。このことから、子どもたちは砂で育てたトマトの苗の土がどういう状態だったのか少し分かったように思われる。

みどころ

子どもたちは砂と土との違いを団子作りを通して感じています。また、砂や土が、水を含んだ時、手で固めた時、水分が乾いた時などでどのように変化していくかを見て触って感じ、自分なりの言葉でそれを表現して友達や保育者に伝えていきます。このような、子どもたちの姿を捉えて保育を展開していくことは、「科学する心」を育むことにつながります。